

教科等研究会（中学校国語部会）

令和5年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

確かな学力を育む「分かる・できる」「楽しい」国語科授業づくり
～言葉の力を育み自ら学び続ける生徒の育成をめざして～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	内容	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6/9	17	木山中	8/17	木山中	講話 ・演習	11/17	蘇陽中	中村朋美 教諭	1/26	甲佐中	小幡侑貴 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

上益城郡教科等研究会全体研究テーマ「児童生徒一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業づくり」を受け、国語部会では令和5年度の研究テーマを「確かな学力を育む『分かる・できる』『楽しい』国語科授業づくり～言葉の力を育み自ら学び続ける生徒の育成をめざして～」と設定した。国語はすべての教科の基礎となるものである。そこで、「分かる・できる」を実感させることで、言葉の力を育み、楽しく学び続けられるような授業づくりをおこなっていきたいと考えた。

① 組織づくり

第1回目の研究会では、昨年度の実践を踏まえ、研究テーマの設定を行った。さらに、全員が教材研究や学びがあるようにと部会を「1年生部会」と「2・3年生部会」に分けた。

② 夏季研修（第2回教科等研究会）

夏の研修では、熊本県立教育センターの宮崎奏映指導主事に「『熊本の学び』の具現化～国語科の授業改善をとおして～」という題で講話・演習をいただいた。研修では、「熊本の学び推進プラン」を中心にお話をいただいた。



③ 授業研究会（第3回、第4回教科等研究会）

第1学年の「案内や報告の文章を書こう」、第2学年の「いきいきと描き出そう 短歌から始まる物語」の授業を行った。各部会で本年度のテーマに沿って事前検討を重ね、研究授業を行った。

(2) 成果と課題

① 成果

- ・第2回教科等研究会では、教育センターの指導主事から講話をいただき、「学習構想案」について、目指す姿を生徒と共有することで、達成感のある学びにつながることを再確認することができた。また、「単元を通じた学習課題」を設定することのよさや効果を共有することができた。
- ・2回の授業研究会を行うことができた。その際に、事前授業を行ったり、事前研究会を行ったりすることで、授業者一人だけに任せることなく、部会全体で授業を作り上げることができた。

② 課題

- ・部会によって、授業者に偏りが出ていること。
- ・県大会や九州大会への参加者が、そこで得た学びを、どのようにして国語部会に還元していくかということ。

4 実践事例

(1) 授業の概要

○1年生部会「案内や報告の文章を書こう」（東京書籍『新しい国語1』）

① 授業者自評から

- ・手書きにこだわることで、オリジナリティを出させ、「楽しさ」を感じさせたかった。
- ・「書くこと」に対して手だてが必要な生徒が多いが、書く時間を多くとった点については反省が残る。
- ・保護者の立場でよむという場合、アドバイスの仕方はこれでよかったのか、また、振り返りのさせかたについて教えていただきたい。



② 質疑応答

- ・自分流のくだけかたという指示が生徒は難しかったようだ。どのように考えられていたのか。→具体的に家族を思い浮かべながら必要な情報を考えてほしかった。
- ・「保護者の皆様」に向けて書いている生徒と「自分の家族」に向けて書いている生徒がいた。先生のイメージはどちらであったのか。
→「自分の家族」に向けて書かせたいと考えていた。
- ・自分の親に向けて書くのであれば案内状ではなく、手紙でもよかったのではないか。案内状ということで、どこに家族向けの言葉を入れたらいいのか、子どもたちが迷っていた。先生から提示があってもよかったのではないか。
→自分としては案内文と思っていたが、迷いもあった。明確に授業すべきだった。手紙と言われたらそうかもしれない。
- ・「振り返りを書いて」という指示だけで生徒は書き始めていた。普段の様子も含めて、振り返りの視点を教えていただきたい。
→今日の学びや次に生かすこと等を含めて大きく捉えて書かせている。振り返りについては先生方からアドバイスをいただきたい。

③ 研究協議から

- ・導入で、型を確認できたことはよかった。
- ・書く相手や目的を工夫することで、楽しさにつながるし、今後の案内文に興味を持たせられるので、生活に生きる内容だった。
- ・振り返りは、「この授業で何が身についたのか、それを今後の生活でどう生かしていきたいのか」を書かせるのも効果的である。

○2・3年生部会「いきいきと描き出そう 短歌から始まる物語」（東京書籍『新しい国語2』）

④ 授業者自評から

- ・前時の振り返りで、「友達とたくさん意見交換をしたい」という言葉を受けて、導入を変更した。
- ・1、2回目の相互評価は、視点を変えた方がよかった。
- ・タブレットでコミュニケーションをとらせたが、うまくいったりいかなかったりで、難しい面もあった。紙の方がよかったのか、アドバイスをいただきたい。
- ・「書くこと」に抵抗がある生徒にどのような手立てを講じたらいいのか。

⑤ 質疑応答

- ・2グループでの話し合いは、どういう意図で行ったのか。
→同じグループだと思考が同じになる。別のグループで考えさせることで、新しい視点が入ると考え、行った。
- ・めあて「物語を仕上げるポイント」はどこができていればよかったのか。
→10項目の中から、次のポイントをおさえる（○を増やす）ことができていたらよかった。

⑥ 研究協議から

- ・前時の振り返りが効果的だった。
- ・全員が物語を仕上げる事ができ、主体的に取り組んでいた。
- ・視点を絞ったアドバイスにするとよかったのではないかな。

(2) 学習構想案

① 1年生部会「案内や報告の文章を書こう」（東京書籍『新しい国語1』）

- ・目標 相手に応じて必要な情報を選び、的確な構成で案内状を書くことができる。
- ・展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	5分	1 案内文の型を確認する。 2 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・書いておかなければならない情報は確実に書くことをおさえる。 ・案内文の型を前で貼らせて作り上げていくようにする。
		【めあて】 家族に向けて、自分流の案内状を書くことができる。	
展開	42分	3 家族に向けた案内状を書く。 ◇この情報は必要ないかな。 ◇自分の〇〇などところを見てほしい。 ◇寒いので厚着をしてきた方がいい。 ◇録画しておいてほしい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【期待される学びの姿】 家族にとって必要な情報を取り入れ、自分流の案内状を書こうとする姿。 </div> 4 班で読み合う。 ◇いきなり内容から入るのではなく、何か一言を入れた方がいいと思う。 ◇体育大会で何を頑張りたいかを書いた方がよい。 5 アドバイスをもとに書き直す。 6 全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家族を思い浮かべさせ、自分の家族に伝えたいこと、書いておかなければならない情報を考えさせる。 ・大事なことは字を大きくしたり、線を引いたりして工夫するよう伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【具体的評価規準】[思①] ○ 目的や意図に応じて材料を整理し、伝えたいことを明確にした案内状を書いている。(方法：ワークシート) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【具体的評価規準】[主①] ○ 積極的に必要な情報を選択し、家族に向けた案内状を書こうとしている。(方法：観察) </div> <p>【到達していない生徒への手立て】 机間指導において、対話を通して自分の考えを整理させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来の読み手になったつもりで互いに読み合い、アドバイスをするように伝える。 ・付せんに書いてアドバイスさせる。 ・付せんを見ながら書き直させる。 ・数名の生徒の案内状を紹介し共有する。
終末	3分	7 本時の学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返るとともに、次時の学習への見通しを持たせる。

- ② 2・3年生部会「いきいきと描き出そう 短歌から始まる物語」（東京書籍『新しい国語2』）
- ・目標 友だちと下書きを推敲し、物語を仕上げるポイントを整理することができる。
 - ・展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	10分	<p>1 学習の目標を確認する。</p> <p>① 単元の導入時に活用した教科書教材の文例をもとに検討した評価について振り返る。</p> <p>◇ (振り返りシートを見て) 今日はこんな表現の工夫をしてみよう。</p> <p>② 前時で集めた材料を基に、想像を誘う表現の復習を行う。</p> <p>◇ 最初から全てを書かずに謎を少し残すとよかったなあ。</p>	<p>○数名の生徒が書いた学習の振り返りの内容を基に、どのようなところに気をつけて物語を書いていったのかを思い出しやすいようにする</p> <p>○前時の復習をして、一文を短くすることや、徐々に描き出すことを思い出させる。</p>
<p>【めあて】友だちと下書きを推敲し、物語を仕上げるポイントを整理することができる。</p>			
展開	30分	<p>2 目標の達成に向けて活動する。</p> <p>① 自分自身の考えを持つ。</p> <p>◇ ここにこの工夫を入れている。この部分を～変えてみようかな</p> <p>② 同じ短歌を選んで物語を書いている友だちと意見を交換して物語を仕上げる。</p> <p>◇ このアイデアを参考にして、書いてみよう。</p> <p>◇ こんなアイデアあるけどどうかな。</p> <p>.....</p> <p>【期待される学びの姿】</p> <p>.....</p> <p>よりよく内容を伝えるための言葉の選び方や描写の工夫に着目し、対話をとおして、自分の伝えたい内容に合うよう選択している。</p> <p>.....</p>	<p>○自分自身が書いた文章を再度確かめて、自分の文章にどんな工夫を取り入れることができているかを考えさせる。必要に応じて訂正や加筆をしてもよいと伝える。</p> <p>○友だちと読み合い、他にどんな表現ができそうかを考えることで、一人で考えることを不安だと思っている生徒が取り組みやすいようにする</p>
<p>【具体的評価基準】観点【思②】</p> <p>表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。【方法：タブレット】</p>			
<p>【到達していない生徒への手立て】</p> <p>○早く仕上がった生徒に声をかけ、一緒に考えるよう促す。</p> <p>○タブレットで他の生徒のアイデアを見ることができるようにして、会話をしながらイメージを言葉にする機会をつくる。</p>			
終末	10分	<p>3 振り返りをする。</p>	<p>○数名の振り返りを紹介し、本時の目標に向かって頑張ろうとしていることを認める。</p>
<p>【振り返り】物語をよりよくするために、言葉を足したり、似た意味の言葉のどちらがいかを比べたりすることができた。次は、できなかった比喻や擬音語も足して工夫していきたいです。(生徒)</p>			